

平和な大阪港の発展へ 「非核神戸方式」採用を

江川繁議員



江川繁議員は、大阪港の平和的な発展や、夢洲へのカジノ誘致問題などで質問しました。大阪港

は1868年に開港し、ことし150年を迎えました。国際情勢が緊迫する中、江川氏は1994年に大阪市議会で可決された「大阪港の平和利用に関する決議」を示し、吉村洋文市長に「世界に開かれた平和な貿易港としてさらに発展させることが市長の責務だ」と述べました。

また同決議にもかかわらず、大阪港に入港する米艦船が核兵器を積んでいる疑いが残っていると指摘。艦船に核兵器を搭載していないことを証明する「非核証明書」の提出を義務付ける「非核神戸方式」を取り入れることが重要だと迫りました。

吉村氏は「決議の趣旨を踏まえ、平和な貿易港として運営する」とする一方、「国防は国家の専権事項」と答弁。核積載艦船の入港については日米韓の「事前協議」があることを理由に、「非核神戸方式」の採用には背を向けました。

また江川氏は、港湾法の趣旨や港湾の目的は市

民のための物流、人と人との交流による暮らしと平和の発展にあると強調。世論調査でも国民の6割が反対するカジノを核とした統合型リゾート（IR）を夢洲に誘致することは、その目的に反するとし、「港湾行政を進める立場から、きっぱり断念すべき」と主張しました。

吉村氏は「夢洲は大阪の成長発展に貴重なエリア」と、カジノ誘致に固執。江川氏は「ベイエリア開発の失敗を深く、冷静に反省し、市民に損害を与えないよう、引き返せるのは今。賢明な判断をしなければ、吉村市長は歴史に大汚点を残すことになる」と述べました。